企業の農業経営について

B16079

前田　剛志

1. 企業の農業進出の現状

　現在企業の農業進出は年々増加している。多くは地元の中小企業だが、食品関係の大企業の参入も多くみられる。作っているものは野菜が多く、次いで米麦になっている。しかし農業進出が増加している一方で撤退している企業も少なくはない。農業参入条件が低くなったことにより、増加しているのであって撤退した企業が少ないというわけではない。

1. 農業進出した企業の未来

　先ほど撤退する企業も少なくないと書いたが、ならばなぜ企業はなぜ撤退していくのだろう。それはもちろん利益が出ないからである。ではなぜ利益が出ないのかその問題明らかにしよう。まず一つに農業に対する知識不足があげられると思う。さすがにいまだ鍬を片手に田んぼを耕したり、鎌で稲刈りをしていると思っている人はいないとは思うが、しかし農作業は体力のいる力仕事だと思っている人は多いのではないだろうか。そういう人が農業を始めるとまず失敗するだろう。このような人は汗水たらして一生懸命働いてしんどい思いをして作物を作る。そして利益をみてこう思う「あれ、しんどい割に儲かってない」。まず今の農業というのは力仕事が全くないとは言えませんが、ほとんどの作業が機械でできるようになっており少人数でかつ女性やお年寄りでもできるようになっています。私の家は今でも家で食べる分と親せきにあげる分のお米一年分をつくっております。それだけのお米を作るのに必要な人は少なく、ほとんどの作業を最悪一人でもいればできてしまいます。私の家では力仕事のある種まき以外の、田植えや稲刈りなどは基本空いてるだれか二人がしますし、田んぼの手入れなどはほぼおばあちゃん一人が行っています。今の時代機械がほとんどやってくれるので作業自体はほんとうに楽にできるようになっています。なら儲かるようにするためにはなにをするべきなのかというと、私は「農業も立派なビジネスであることを理解する」ことと、「今まで培ってきた技術をしっかり伝えられる人の育成」この二つが重要だと考えます。まず一つ目は体を使うのではなく頭を使えということです。今の流行や需要と供給を考えたりして長期的なビジョンと綿密な計画と他の企業との競争に勝つための経営戦略を立てるなど農業も頭脳労働であることを理解することが大事である。二つ目は知識を後世に伝えていかなければならないということです。人にものを教えるということはとても難しいものです。そして農業は昔会社ではなく家でやっていましたすると作物の作り方は教えられるものでなく、長い時間を経て自然と身についていったものになると思います。するといざ人に教えようとしてもそれは言葉で教えられたものでなく自然と体が覚えていった知識になるので、人にうまく教えられません。それは人に教えるという経験がないからです。私も今まで米作りを手伝ってきましたがこうやってやると見本を見せれらても、こうやってやったらどうなるのような教えることはできないでしょう。すると不十分な知識で初めてみても作物はうまく育たないでしょう。したがって正しい確かな知識を教えられる人の育成を農協あたりが行いその人をアドバイザーとして派遣するなどすればよいと思う。

1. 就職先としてアリかナシか

　私の意見としてはナシです。理由としては早く働きたいからです。まず農業でご飯を食べていこうと思うとさっきも上げた通り農業に関しての知識をまた勉強をしないといけません。せっかくこの大学にきて情報関係の勉強をしたのにまた別の勉強を始めるのは親にも申し訳ないです。ですが農業に今学んでいる知識を生かして関わっていくのは全然ありだと思います。